【4-8　定性的システマティックレビュー】

CQ		*BRCA* 病的バリアントを有するプラチナ感受性切除不能膵癌に対し、PARP阻害薬の維持療法は推奨されるか？
P	プラチナ感受性切除不能膵癌	
I	オラパリブ	
C	経過観察	
臨床的文脈		

O1	PFS
非直接性のまとめ	該当するRCTは本CQを対象としたものであるが、日本は本RCTに参加しておらず、日本人への適用には問題がある。また、対照が経過観察であり、国内で行われている維持療法と異なる点も問題である。
バイアスリスクのまとめ	OSについては完全な盲検化されていない
非一貫性その他のまとめ	RCTであり、非一貫性はない。
コメント	プラチナ感受性切除不能膵癌に対し、経過観察に対してオラパリブの病勢進行効果が示された

O2	O1と非直接性、バイアスリスク、非一貫性は同様である。対照が経過観察であることやイベント数不十分であることより、本CQ対象患者に対してオラパリブのOSの有効性は明らかではない

O3	O1と非直接性、バイアスリスク、非一貫性は同様である。プラチナ感受性切除不能膵癌に対し、経過観察に対してオラパリブの忍容性が示された